

神戸YMCA学院専門学校  
2023年度 自己点検・評価表

1.学校の教育目標

公益財団法人 神戸YMCAはキリスト教精神に基づき、兵庫県の青少年等の心身と人格の向上を図り、奉仕の精神をやしなひ、もって民主社会の発展に寄与するとともに、世界の平和に貢献することを目的としています。（「公益財団法人 神戸YMCA 定款」より抜粋）

そして、本校は、時代が要請する専門性に対して豊かな柔軟性をもって集中的な知識と技能の専門教育を提供すると共に、人間として確固たる信念を持ち、自らの人生を切り拓いていくことのできる青年を育成することをめざします。

2.本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

<ホテル学科>

ホテルスタッフ養成機関としての役割を維持しつつ、多様化する社会環境に合わせて、観光都市神戸の中でブライダル業界、ツーリズム業界との関係を強化し、就職先の拡大を目指していきます。また、学生の募集広報の強化を推進していきます。（2023年度の目標）

<日本語学科>

コロナ前の学生数に戻し、通常の学校生活を実施できるように運営していきます。そのために、多様化する就職支援、非漢字圏からの学生への指導方法改善等に取り組んでいきます。日本語教育機関認定法の改訂による勉強会に参加し、2024年度に取り組みについて検討します。（2023年度目標）

3.評価項目の達成及び取組状況（評価項目は、ほぼ前年と同じ）

評価基準 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4 3 2 1
・各学科における職業教育の特色が明確にされているか	4 3 2 1
・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想をいっているか	4 3 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 3 2 1

① 今年度の評価（実施できたこと）

・日本語学科では、海外出張を再開し AG や関係教育機関との関係性を構築していくことを再開した。学校運営では、通常の授業を滞りなく実施し、これまで制限をされていた行事、課外活動などを滞りなく実施することができた。

・ホテル学科では、インバウンドの復活により就職先となるホテル観光業界への就職は順調に進み、2年生は全員就職することができた。大阪万博（2025）に向けて関西ではホテルが集中的に建設されているため引き続き人材は必要とされている。

・今年度は、コンサルテーションを導入。学生対応に関するケーススタディを定期的に行い、より学生に寄り添った学生指導、教員との連携、地域との連携を進めることができた。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

・募集広報の強化が急務である。日本語学科は、多国籍な学生を受け入れるための AG との連携が必要とされる。ホテル学科は、高校生へのアプローチ、留学生の受け入れの拡充、HPの更新が必要とされている。これらの募集候補を着実に推進していくことが重要である。

・学校としての情報公開を行いつつ、学校教育事業の中期計画に沿って推進していく。

③ 特記事項：（補足事項）

④

・特になし

(2) 学校運営

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・設置団体は学校運営者として適切な団体であるか	4	3	2	1
・目標達成にむけた運営方針や中長期計画・単年度の事業計画が策定されているか	4	3	2	1
・事業計画にしたがって教育活動が実施されているか	4	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	4	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は、有効に機能しているか	4	3	2	1
・基本計画に従った予算執行が適切になされているか	4	3	2	1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	2	1
・校長、主任教員及び教員は、専修学校及び日本語教育機関で求められる要件を満たしているか。	4	3	2	1
・留学生のための事務組織が整備されており、留学生の申請取次者が配置されているか。	4	3	2	1
・授業料等の内訳及び納付時期が明示されている。また、学費返金規定が公開されているか。	4	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	3	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・教員変更に伴い、法務省への届出を行った（日本語学科）
- ・両学科ともこれまで制限を受けていたプログラムを予定通り実施することができた。
- ・職員体制の変更に対して、役割変更や業務の整理を行った。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・職員体制の充実化を図り、新たな体制でより安定した効率的な学校運営を目指す。
- ・学校教育事業主催の研修会を開き、職員を対象として研修の機会を提供する。

③特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

- ・特になし

(3) 教育活動

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・教育目標に沿って修業年限に対応した到達目標が明確にされているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・到達目標に合わせて教育課程・カリキュラムが体系的に編成されているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・関連企業や業界団体との連携により、教育内容やプログラムの作成や見直し等が行われているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・関連企業や業界団体との連携により、実践的な教育（実習等）が体系的に位置づけられているか。	ホテル)	4	3	2	1

・教育目標に合致した教材が選定されている。また、補助教材等は著作権法に留意されているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・外部関係者からの評価を取り入れているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学習内容、学事暦、学習及び学校生活における留意点、入管法上の課題等を、学生達に伝えているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・資格取得に関する指導体制がとられているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる能力経験を備えた教育を確保しているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・業界団体との連携において優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	ホテル)	4	3	2	1
・指導者の研修や指導力育成のための取り組みが行われているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・両学科とも対面授業に戻した。
- ・課外活動や実習、スピーチコンテストや卒業制作発表会なども、対面で実施することができた。
- ・日本語学科では、コロナ禍以前の学生数に戻った。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・ホテル学科：学校創立 60 周年を迎える。記念式典を実施し、卒業生やホテルとの関係をさらに密にし、本校教育活動についてますます理解を得る
- ・日本語学科：日本語教育機関認定に向け、準備を進める。
- ・留学生たちの日本での体験活動をより深いものとするために、各種課外活動やプログラムを提供していく。

③ 特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

- ・特になし

(4) 学修成果

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、				
・就職率の向上にむけての取り組みがなされているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・進路指導の向上と進学率のアップに向けての取り組みがなされているか。	日本語)	4	3	2	1
・資格取得率の向上にむけての取り組みがなされているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・退学者率の軽減にむけての取り組みがなされているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・卒業後の社会的な活躍及び評価を把握しているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・ホ：2年生の就職状況・・21名全員が就職内定。
- ・ホ：年2回の長期実習を、滞りなく実施。

- ・日： JLPT=N2 受験者 16 名、合格 14 名、N13 名受験、合格 3 名、
- ・日： 進学（大学院、大学、専門学校） 30 名、就職 10 名、帰国 7 名。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・ホ： 実習や就職における個別対応を丁寧実施していく。
- ・日： 資格取得のための授業を継続実施する。

③特記事項

- ・特になし

(5) 学生支援

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・就職（進路）指導に関する支援体制は整備されているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学校生活について相談する体制は整備されているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・奨学金等の経済的な支援体制は整備されているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか。		4	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・住宅やアルバイト、在留資格等の学生の生活環境への支援は行われているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・保護者と適切に連携をしているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1

①今年度の評価（実施できたこと）

- ・ワイズメンズクラブやコープこうべ等の団体から、食料品や生活物資の寄贈を受け、留学生や下宿生を対象に寄贈品の提供を行った。
- ・カウンセラーによる、学生相談や、学生対応のためのコンサルティングを実施した。

③ 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・次年度も関係各位へ支援要請をして、学生たちへの物資支援を行っていく。
- ・次年度も、カウンセラーによる、学生相談や学生対応のためのコンサルティングを実施する。

③特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

(6) 教育環境

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・教育機関として適切な位置環境にあるか、兵庫県及び法務省の基準を満たしているか。		4	3	2	1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分に対応できるよう整備されているか		4	3	2	1
・学校外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	ホテル)	4	3	2	1

・防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1
--------------------	---	---	---	---

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・ホテル：ホテル実習や海外研修の機会を提供している。
- ・両学科：年2回の消防訓練を実施している。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・ホテル：より現場に近く、深い学びのために、教員、ホテル、関係各位との関係性を構築する。
- ・日本語：学生の増加人数にあった教員体制を整え、授業及び課外活動等のプログラムを予定通り実施する。

③ 特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

(7) 学生募集活動

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・学生募集活動は、受入方針を定め、募集計画を策定し、計画に従って適正に行われているか	ホテル) 4	3	2	1
	日本語) 4	3	2	1
・学生募集活動において、学校情報提供や入学相談を行っているか	ホテル) 4	3	2	1
	日本語) 4	3	2	1
・学生募集活動において、教育内容や教育成果は正確につたえられているか。	ホテル) 4	3	2	1
	日本語) 4	3	2	1
・学費等の学生納付金は適切なものとなっているか。	ホテル) 4	3	2	1
	日本語) 4	3	2	1
・海外の募集代理人（AG）の行う募集活動が適切に行われていることを把握しているか。	日本語) 4	3	2	1
・入学選考基準及び方法が明確化されているか	ホテル) 4	3	2	1
	日本語) 4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・ホテル：資料請求に対応し、昨年度以上資料送付をすることができた。オープンキャンパスを定期的実施し、在校生との関わりの機会もつくることができた。
- ・ホテル：学校が目指す学生像と指導内容を正確に伝えることを徹底し、学校と学生の乖離を極力少なくすることを目指した。
- ・日：中国・台湾を訪問しての募集活動を再開した。
- ・日：リスティング広告を行い、新たなAGとの交渉をして、学生紹介をうけた。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・ホテル：資料請求者における来校率アップのために、オープンキャンパス案内に、当日の詳しい内容を明示する。
- ・ホテル：来校者における出願率を上げるため、オープンキャンパスにおいて体験授業を実施する。
- ・ホテル：ホームページ改定のための検討を行う。
- ・日本語：リスティング広告を継続させ、よりHPへの訪問者を増加させて、学校の認知を得ることに取り組み、引き続き口コミ紹介を誘引することを狙う。

③ 特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

(8) 財務

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・財務について会計監査が適切に行われているか	4	3	2	1

・財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1
---------------------	---	---	---	---

① 今年度の評価（実施できたこと）

・日本語学科は、秋期 142 名となり学生数は回復傾向にあるが、ホテル学科の新入生 8 名には苦戦をし予算にも影響した。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

・ホテル学科のホームページ改訂が必要なためより綿密な予算計画が必要。  
・年度途中の退学者が多いため返金規定の見直しを行う。

③ 特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

（9） 法令等の遵守

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	兵庫県) 法務省)	4	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか		4	3	2	1
・自己評価の実施と問題点改善を行っているか		4	3	2	1
・関係省庁、法務省入管局への届出・報告を行っているか		4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

・法務省へ、定期報告と教員変更届けを提出した。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

・引き続き継続する。  
・日本語学校認定校改訂に合わせて学則変更を検討する。

③ 特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

・特になし

（10） 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献をおこなっているか。	4	3	2	1
・学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	4	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

・参加者を限定して秋祭りを実施した。保育園との国際交流事業で留学生学生が参加し、園児との交流プログラムを行った。  
・長期休暇中に学童保育ボランティアの機会を留学生に提供をした。  
・神戸市子ども家庭局こども未来課から打診のあった「子育て世帯への職を通じたつながり支援事業」の実施した。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

・継続して、実施をしていく。

③特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

・特になし

(11) 留学生の入国在留支援について

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・留学生の受入れについて、戦略をもって行っているか)	4	3	2	1
・留学生の受入れ、在籍管理等において正確な情報収集、適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・日本語学科を中心に、国の入国審査や施策を確認し、適切な対応を行ってきた。今年度、日本語学科の在留資格交付率は96%超。
- ・留学生に対し、ホームルームにおいて、生活状況調査を定期的に行い、学生の状況の変更等の把握に努めた。
- ・関係省庁、入国管理局等のHPや県からの通達など、その内容を踏まえながら、関係団体の情報、協働する日本のYMCAの留学生事業、および海外のYMCAやエージェントからの情報も得ている。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・引き続き、正確な情報を関係省庁、団体から得て、適切な手続きを行っていく。

③特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

- ・特になし

#### 4.学校評価の具体的な目標、計画の総合的な評価結果

日本語学科は徐々に学生が戻りつつあり、2024年度にはコロナ前の学生数並みに見込みである。国籍はコロナ前と大きく変化している。漢字圏（中国、台湾等）が減り、非漢字圏（ミャンマー、ネパール等）からの学生が占める割合が大きく増えている。その影響も多少あり、就職を選択する学生への対応、日本語能力の低い学生への対応、漢字学習指導の強化、生活（文化）の違い等によるストレスからくる精神的に不安定な学生への対応、期間途中で進路変更をせざるを得ない（あるいは、当初の目的意識が低いいため進路に対する明確なビジョンが無い）学生への対応など、教科指導、生活指導の両面での教職員の負担が増えた1年であった。

2025年度中の日本語教育機関の認定制度への対応（カリキュラムの編成、制度の構築、体制の確立、申請作業など）が急務であり、その準備期間として位置づけ、カリキュラムの見直しを中心に活発な議論がなされた1年であった。その成果はそれぞれの授業にも生かされ、学生の満足度につながっている。

今年度の評価を踏まえ、海外のエージェントとの関係の強化（2023年度から海外出張を再開、今後も継続）、日本語教育機関の認定制度への対応（2024年度に常勤を採用し準備を進める）、就職サポート、生活サポート体制の強化、各種学校事務（教務管理、学生管理、申請等）の強化（後継者の育成）等に力を入れ、2025年度の学生数160～180人（精査中）の達成を目標とする。

ホテル学科は近隣に同系統の専門学校が新設されたことや、既存の学校（複数）がブライダル系のコースを設けたこと、2026年度には新設校が募集を始めること等により競合が激化している。高校生は1年生の冬～春頃に進路をほぼ決めているというデータが示すように、早期からのアプローチが重要である。広報（ホームページのリニューアル、SNSによる発信の強化、高校訪問、高校送り等）、カリキュラムの見直しによる職業教育内容の強化、魅力の創出（着手中）、後継者の育成（常勤を採用予定）に力を注ぎ、2025年度は入学者数20人～30人の達成を目標とする。